

## ● 新指定答申文化財の概要

【種別】有形文化財 建造物

【名称】宗徳寺の層塔

(そうとくじのそうとう)

【員数】1基

【所在地】<sup>ふたお</sup>亀山市<sup>わらび</sup>両尾町字原尾121-2

【年代】鎌倉時代

【規模】総高 223 cm

【概要】

亀山市両尾町に所在する宗徳寺裏山の傾斜地に建っています。高さ 223 cmの三重塔で、石材は<sup>かこうがん</sup>花崗岩<sup>そうりん</sup>です。相輪の上部を欠いていますが、ほぼ完全な形で残っています。基礎の四面には如来坐像が刻まれています。

銘文が無く、正確な造立年代を知ることはできませんが、基礎が横長であること、<sup>とうしん</sup>塔身が縦長であることなど、鎌倉時代前期頃の特徴を備えています。花崗岩などの硬質石材の加工技術や石造層塔の伝播を窺うことができる資料です。

石造層塔として三重県最古の遺品となるばかりか、全国的にも類例の少ない時期の希少な文化財として高い価値を持つことから、県の有形文化財(建造物)として指定し、今後も万全の保護を図る必要があるものです。

